別表1. 外国語学科中国語科

必修・選択の別	授 業 科 目	年間授業時数		授業時数	単位数		
		第1学年	第2学年	合 計	第1学年	第2学年	合 計
必修	ホスピタリティ入学研修	12	0	12	−	−	−
必修	入学オリエンテーション	12	0	12	−	−	−
必修	就職セミナー	8	0	8	−	−	−
必修	ショートホームルーム	60	60	120	−	−	−
必修	始業HR	0	4	4	−	−	−
必修	卒業式前HR	0	4	4	−	−	−
小計		92	68	160	−	−	−
必修	業界英会話	60		60	4		4
必修	ホスピタリティ・SDGs研究	30		30	2		2
必修	キャリアガイダンス	60	30	90	4	2	6
必修	ビジネスプレゼンテーション	60		60	4		4
必修	ゼミナール		30	30		2	2
必修	実践PCスキル	60		60	4		4
必修	基礎中国語（発音）	30		30	2		2
必修	基礎中国語（聞き取り）	60		60	4		4
必修	基礎中国語（読解）	60		60	4		4
必修	基礎中国語（書き）	60		60	4		4
必修	接客中国語（会話）	60		60	4		4
必修	コミュニケーション中国語（会話）	60		60	4		4
必修	文書表現	30		30	2		2
必修	インバウンド実務主任者認定試験対策	30		30	2		2
必修	日本文化研究	30		30	2		2
必修	異文化研究	30		30	2		2
必修	中国語検定対策	30	90	120	2	6	8
必修	繁体字演習	30		30	2		2
必修	マナープロトコール検定対策	30		30	2		2
必修	スピーチトレーニング	30		30	2		2
必修	イベントプランニング		60	60		4	4
必修	セールスプロモーション		60	60		4	4
必修	HSK検定対策(聞き取り)		60	60		4	4
必修	応用中国語（文法）		60	60		4	4
必修	応用中国語（会話）		60	60		4	4
必修	ビジネス中国語		60	60		4	4
必修	中国語プレゼンテーショントレーニング		30	30		2	2
必修	HSK検定対策(読解・作文)		60	60		4	4
必修	時事中国語		60	60		4	4
必修	接客英会話		30	30		2	2
必修	中国語PCスキル		60	60		4	4
必修	おもてなしプランニング		30	30		2	2
必修	Social Media Plannning		30	30		2	2
必修	卒業制作		30	30		2	2
専門科目（必修）授業時数＆総単位数		840	840	1680	56	56	112
総授業時数＆総単位数		932	908	1840	56	56	112

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			インバウンド実務主任者認定試験対策			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
訪日外国人旅行者に対する対応方法と、この外国人をビジネスチャンスとして取組める対応力を養う。又、台湾現地での日本人の受入れの現場を考察し、台湾流ホスピタリタィも学んでいく。 合わせて「インバウンド実務主任者試験」も受験出来るノウハウも学んで行く。	授業形態：講義 インバウンドに対する「おもてなし」の意識を持った対応を考察する。現段階で日本の外国人受け入れ体制と、諸外国でのインバンド受入れ体制を比較し、現場感覚を大事に講義する。そして理想のインバウンドビジネス業界で活躍出来るリーダーを目指し、現場視察、講義も取入れて行く。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	インバウンドとは？			各国の歴史講座。インバウンドに関する現状理解を確認。	講義
2	インバウンドの意味と訪日IB現状 新型コロナウイルスの日台対応比較			インバウンドの定義。訪日旅行者人数推移、増加背景、今後の目標	講義
3	訪日IBの業務形態			IB業務形態とビジネス戦略を理解する	講義
4	訪日IBに関わる団体・組織			IB業界を取り巻く団体・組織を理解する	講義
5	訪日IB現状と動向① 課題発表について説明	筆記	10	国・地域別旅行者数 課題は地元IB発表、準備の仕方	講義
6	訪日IB現状と動向② 訪日IB現状と動向③			各自訪日IBに人気の観光地 （②都道府県、③ディスティネーション）	講義
7	現地IB「諸外国での気づき」を発表 地元等のIB現状を理解する			授業で気づいたホスピタリティを通して外国から見た日本を考える	講義
8	IBについて発表	発表	20	各自収集した情報を発表	実技
9	グループワーク①			訪日外国人旅行客×地域創生を考える	講義
10	グループワーク②			訪日外国人旅行客×地域創生を考える	講義
11	グループワーク③	課題	10	訪日外国人旅行客×地域創生を考える	講義
12	発表	実技	20	成果発表	実技
13	期末テスト対策　まとめ復習			これまでの復習と　期末テストの傾向対策	講義
14	期末テスト	筆記	40	授業内テスト実施	講義
15	まとめ			前期のまとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料 プリント配布

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			キャリアガイダンス			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
1. ビジネスマナー・就活の基本を学ぶ 2. ビジネス能力検定ジョブパス 3級合格を目指す(申込不要) 3. ホスピタリティを土台とし、マナーをわきまえた社会人の言動をとれるようになる 【2級受験希望者は学生カウンターへ要申請】	就職活動でも必要となる、ビジネスマナーとコミュニケーション、仕事の進め方やビジネス文書、電話応対などを学びながら、同時に検定合格を目指す。 授業では、テキストと問題集を併用し、知識の習得や過去、模擬問題に取り組み、家庭学習も必要となる。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	第1編、1、2章 キャリア、働く意識、8つの意識			□ キャリアを知り、働く意義を考える □ 仕事の基本となる8つの意識を身につける	講義
2	第1編、3、4章 コミュニケーション、ほうれんそう	筆記	5	□ コミュニケーションとビジネスマナーの基本について理解する □ 「ほうれんそう」の重要性を再認識する	講義
3	第1編　5章 話し方、聞き方　敬語	筆記	5	□ 敬語、話し方と聞き方のポイントを理解し、「学生ことば」を卒業する	講義
4	第1編　6,7章 来客応対、訪問、対外交際	筆記	5	□ 来客応対と訪問の基本マナーを身につける □ 会社関係でのつき合いを知る	講義
5	中間テスト 第2編　1章　仕事への取り組み方	筆記	15	□ 仕事への取り組み方について理解する	講義
6	第2編　2章　ビジネス文書・メール 配布資料　添え状とは	筆記	5	□ ビジネス文書の基本を身につける □ 添え状が書けるようになる	講義
7	第2編　3章　電話応対 配布資料　就活に於ける電話応対	筆記	5	□ 基本的な電話応対ができるようになる □ ケーススタディで電話応対を身につける	講義
8	第2編　4、5章 データの読み方、情報収集	筆記	5	□ メディアを活用した情報収集ができる	講義
9	第2編　6章 経済史、社会の環境	筆記	5	□ 取り巻く環境と経済の基本について理解する	講義
10	期末テスト・検定直前対策	筆記	15	□ ジョブパスの特徴を捉え、出題形式に慣れる	講義
11	業界が求める人物像 自己理解「ジョハリの窓」	課題	5	□ 業界が求める人物像を具体化する □「ジョハリの窓」から自己理解の気づきを得る	講義
12	未来計画書作成			□ 成し遂げたい項目3点を掲げる □ 達成のためのアクションプランを完成させる	講義
13	実力テスト①	筆記	15	□ジョブパス過去問を解き理解する	講義
14	実力テスト②	筆記	15	□ジョブパス過去問を解き理解する	講義
15	まとめ			□前期を振り返り理解する	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　80点以上 B　70点以上 C　60点以上 D　59点以下	B検ジョブパス ビジネス能力検定3級 ・公式テキスト ・公式問題集 ・配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			コミュニケーション中国語（会話）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
①中国語の発音を正しく覚える。 ②基本的な文法を身につけ、単語を入れ替えるだけでたくさんの場面での会話ができるようにする。 ③中国人のお客様と自信を持って会話ができるようにする。	①新しい内容を覚えるために繰り返して練習する。 ②前回の学習内容を復習する。 ③会話の場面を設定して会話練習する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	発音 基本的な挨拶			発音方法、基本的な挨拶を覚える	講義
3	第一課　自己紹介			簡単な自己紹介ができる	講義
4	第二課　私は日本人です。			家族・友人を紹介できる	講義
5	第三課　私の兄も医者です	筆記	20	「～も」の言い方を学ぶ	講義
6	第四課　これはパソコンです(1)			「これ、あれ…」指示代名詞の使い方	講義
7	第四課　これはパソコンです(2)	筆記	10	兄弟、家族構成を紹介できる	講義
8	会話力テスト	実技	15	会話の練習を行い、会話力を磨く	実技
9	第五課　今何時ですか。			自分のスケジュールを紹介できる	講義
10	第六課　今日は何曜日ですか。			他人にスケジュールの確認ができる	講義
11	第八課　このパソコンは高いですか	筆記	20	買い物ができるようにする	講義
12	第八課　このパソコンは高いですか			簡単な言葉で自分の感想が述べられる	講義
13	第九課　トイレはどこにありますか	筆記	20	道案内が出来る	講義
14	会話力テスト	実技	15	ロールプレイングを通して、会話力を磨く	実技
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：担当講師と日程相談の上、実施	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	「インバウンド接客中国語講座」 「みんなの中国語　応用編」

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			ビジネスプレゼンテーション			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
社会人として働く時、自分の考えを決裁者に対して理解しやすく納得できるように提案するための段取りや組み立て方を理解し、言語情報・音声情報・視覚情報として伝えることや簡潔明瞭に伝えるスキルを養う。学生自身が好きなこと・得意なことを見つけて、全員がリーダーとなり夢や目標を達成させ、成功体験を語ることができるようになる。	講義をした後、ワークショップ（参加者個々が考え、お互い協力し合い、与えられたテーマを元に行う体験型授業）や実技（発表）を繰り返すことで、基礎のプレゼンテーション知識の体得を目指す。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			一年間の流れ、BTSの説明、ワークショップを実施しクラスの雰囲気を高める	講義
2	自己紹介	実技	20	自己紹介をしながらワークショップを行いコミュニケーションの取りやすい環境を作る	実技
3	チームビルディング（アイスブレイク）			コミュニケーションゲームなどを通じてチーム力を高める方法を理解する	講義
4	チームビルディング（組織強化的、コンセンサス合意）			議論のまとめ方を学び、組織強化、コンセンサス合意を目的としたチームビルディングを行う	講義
5	プレゼンテーションの基本構造、企画の基本構造	課題	10	プレゼンの基本であるPREP構造、企画の基本構造をヒット商品に学ぶ	講義
6	アイディアの発想法			アイディアを発想する方法（フレーム）をいくつか紹介し、発想のトレーニングを行う	講義
7	プレゼンテーションテクニック①（課題の見つけ方）			テーマを示し、情報収集→課題発見→課題解決のワークショップを行う	講義
8	プレゼンテーションテクニック②（アイディア→企画書）	課題	10	課題解決のためのフレームワークを使って企画書の作成を行う	講義
9	プレゼンテーションテクニック③（発表、フィードバック）	実技	20	発表とフィードバック	実技
10	BTS概要説明			BTS全体テーマ発表→「業界を”オシャレ”に」（業界の課題解決の提案）	講義
11	マーケティング基礎			情報収集の仕方、環境分析、ターゲッティング、AIDMAを実例を交えてマーケティングの基礎を学ぶ	講義
12	BTS企画構想（個人）	実技	20	BTSの提案を個人で考え提案内容を作成する	実技
13	BTS企画ワークショップ			個人提案内容について共有し、カテゴリー別にチーム編成する	講義
14	BTS企画構想（チーム）	課題	10	BTSのチームテーマ決定する　※夏休み期間に何をするか、役割分担	講義
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			ホスピタリティ・SDGｓ研究			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
相手の立場に立って考え行動するホスピタリティマインドを理解し、行動に移せるようになることを目標とする。個人間のホスピタリティを理解したあとで、企業が行うホスピタリティの行動としてSDGsの事例を学び、地球規模でホスピタリティの具現化について考察を深める。	「ホスピタリティマインド」「SDGs」という２つのテーマについて、講師がファシリテーターとなり、学生自らが気づきを得るためのワークショップ形式の授業を展開する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション ホスピタリティマインドとは何かを考える			□響存関係づくりからホスピタリティを理解した	講義
2	「これってホスピタリティ？」 事例から考えるホスピタリティ			□事例から様々な考え方や行動があることに気付いた	講義
3	私のホスピタリティ体験			□実体験から、自分のホスピタリティや他者から受けたホスピタリティに気付いた	講義
4	ホスピタリティに必要な力 ①感知力・想像力、SDGsの基礎を学ぶ	課題	30	□業界事例から感知力・想像力を理解した □SDGsの基礎を理解した	講義
5	ホスピタリティに必要な力 ②マインド、SDGsの基礎を学ぶ			□業界事例から感知力・想像力を理解した □SDGsの基礎を理解した	講義
6	１週間のホスピタリティ共有	課題	20	□各自の発表から気づきを得た □SDGsの基礎を理解した	講義
7	ホスピタリティに必要な力 ③マナー、SDGsの基礎を学ぶ			□業界事例からマナーの必要性を理解した □SDGsの基礎を理解した	講義
8	ホスピタリティに必要な力 ③マナー、SDGsの基礎を学ぶ			□業界事例からマナーの必要性を理解した □SDGsの基礎を理解した	講義
9	ホスピタリティに必要な力 ④コミュニケーション、SDGsの基礎を学ぶ	課題	20	□業界事例からコミュニケーション力を理解した □SDGsの基礎を理解した	講義
10	ホスピタリティに必要な力 ④コミュニケーション、SDGsの基礎を学ぶ			□業界事例からコミュニケーション力を理解した □SDGsの基礎を理解した	講義
11	「私のホスピタリティ」(クレド)作成			□自身の今後の行動目標を作成し、ホスピタリティ意識を高めた	講義
12	「自身の考えるホスピタリティについて」	課題	15	□これまでの学びや気づきをもとにホスピタリティについて考えることが出来た	講義
13	SDGsワーク①			□SDGsの取り組みを話し合うことができた	講義
14	SDGsワーク②	課題	15	□SDGsの取り組みを話し合うことができた	講義
15	総復習 フィードバック			□ホスピタリティについて考える機会が増えた	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			基礎中国語（書き）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
簡体字と繁体字の違いを知り、必要に応じて各字体の使い分けができるようにする。	講義、授業内筆記テスト、期末試験。簡体字と繁体字の成り立ちと使用される地域を理解する。初めは簡体字・繁体字の学習を同時に進行する。中盤～後半の授業は中検対策の一環で簡体字のみ使う。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	日中台で使われる漢字			簡体字・繁体字の違いと使用される地域を知る	講義
2	挨拶表現、自己紹介			簡体字と繁体字で書けるようにする	講義
3	動詞述語文			簡体字と繁体字で書けるようにする	講義
4	形容詞述語文			簡体字と繁体字で書けるようにする	講義
5	名詞述語文			簡体字と繁体字で書けるようにする	講義
6	理解度チェック。テーマ作文取り組み	筆記	5	これまで学習した文法を使って小作文作成	講義
7	連動文			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
8	存在を示す動詞			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
9	理解度チェック。テーマ作文取り組み	筆記	5	これまで学習した文法を使って小作文作成	講義
10	動詞のアスペクト（1）			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
11	動詞のアスペクト（2）			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
12	動詞のアスペクト（3）			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
13	動詞のアスペクト（4）			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
14	語気助詞の「了」。理解度チェック。	筆記	5	文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
15	総復習				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料、中国語で書いてみよう（三修社）

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			基礎中国語（読解）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
簡体字と繁体字の違いを知り、様々な文章の読解力を高める。	講義、演習、授業内筆記テスト、期末試験。 前半は繁体字と簡体字で書いてある生活や旅行に関する中国語を読んで理解を深める。後半は簡体字の文章読解演習をメインに行う。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	中国語の表記方法を知る。			簡体字と繁体字の違いを理解	講義
2	繁体字と簡体字で読む（1）			挨拶ことば、自己紹介、国、趣味	講義
3	繁体字と簡体字で読む（2）			食べ物、飲み物、メニュー、注文	講義
4	繁体字と簡体字で読む（3）			交通、買い物、病院、旅行	講義
5	繁体字と簡体字で読む（4）			注意を促す指示、看板・ポスターを読み解く	講義
6	理解度チェック	筆記	5		講義
7	簡体字の読解基礎（1）			簡単な会話文を使った読解演習（穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
8	簡体字の読解基礎（2）			簡単な会話文を使った読解演習（穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
9	簡体字の読解基礎（3）			簡単な会話文を使った読解演習（穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
10	理解度チェック	筆記	5		講義
11	簡体字の読解基礎（4）			短文を使った読解演習穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
12	簡体字の読解基礎（5）			短文を使った読解演習穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
13	簡体字の読解基礎（6）			短文を使った読解演習穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
14	理解度チェック	筆記	5		講義
15	総復習				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			基礎中国語（発音）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
中国語の基本の発音（ピンイン）、発音表記、声調のルールを理解して、中国語検定4級レベルの発音（ピンイン）問題を解けるようにする。発音だけにフォーカスをあてた授業内容で、学生の発音、聞き取りに対する苦手意識をなくす。	講義、小テスト、実技、期末試験 発音方法とピンイン・四声の理解。 常用フレーズを使って発音強化。 日本人が不得手とする発音をポイント解説。 中国語のリズム感を理解。 様々な人の発音を聞き、クセのある発音に慣れる。 定期的な聞き取りで達成度を確認。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	中国語発音の重要性、発音（ピンイン）表記の仕方、声調の意味			中国語発音の特徴を理解	講義
2	母音（基本の母音+アール音）			母音の理解	講義
3	子音（唇音。舌尖音、舌根音、舌面音、捲舌音、舌歯音）			子音の理解	講義
4	聞き取り練習	小テスト	5	母音・子音の聞き取り度を確認（音節）	講義
5	声調の変化、軽声			声調の変化、軽声のルールを理解	講義
6	自己紹介文で発音練習（1）			多用するフレーズ中の発音の精度を上げる	実技
7	自己紹介文で発音練習（2）	実技	5	多用するフレーズ中の発音の精度を上げる	実技
8	日本人が苦手な発音を強化			e/yu/zh/ch/sh/r/zi/ci/si/an/ang/yin/ying などの発音のコツを深掘り解説	講義
9	聞き取り練習	小テスト	5	母音・子音の聞き取り度を確認（単語）	講義
10	質問・回答フレーズで発音練習	実技	5	多用するフレーズ中の発音の精度を上げる	実技
11	中国語のリズム感（語感）を掴む			より流暢な中国語の話し方を学ぶ	講義
12	一日の出来事紹介で発音を強化	実技	5	多用するフレーズ中の発音の精度を上げる	実技
13	様々な音源の中国語に触れる			アナウンスのプロではない一般人の話し方を聞き、ネイティブのリズム感を体感する	講義
14	聞き取り練習	小テスト	5	母音・子音の聞き取り度を確認（文章）	講義
15	総復習			これまでのまとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
100点満点（小テスト15点、実技15点、期末筆記試験70点）	A　80点以上 B　70点以上 C　60点以上 D　59点以下	中国語発音マスター（大修館書店）

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			基礎中国語（聞き取り）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
基本的なリスニングをマスターする。中検4級受験を目指して正確な聞き取り、アウトプット力を身に付ける。	講義、演習、小テスト、期末試験。 演習の時間を多く設けて中国語耳を作る。聞き取りの力をつける為に、発音と成長の仕組みから理解する。聞き分けが難しい発音にもフォーカスをあてて強化練習を行う。後半では中検の過去問取り組みや、その場で聞き取った情報をアウトプットする練習を行う。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	中国語の発音の種類と声調			中国語の音の構造を理解	講義
2	中国語の発音理解（1）			母音、子音の理解	講義
3	中国語の発音理解（2）			子音の理解	講義
4	中国語の発音理解（3）			日本人が苦手な発音をピックアップして聞き分けのコツを掴む	講義
5	理解度チェック。発音・単語・小フレーズの聞き取り（1）	小テスト	5	中検準4級レベルの発音、単語、小フレーズの聞き取り	講義
6	発音・単語・小フレーズの聞き取り（2）			中検準4級レベルの発音、単語、小フレーズの聞き取り	講義
7	発音・単語・小フレーズの聞き取り（3）			中検準4級レベルの発音、単語、小フレーズの聞き取り	講義
8	理解度チェック。文章の聞き取り（1）	小テスト	5	会話文、叙述文の聞き取り	講義
9	文章の聞き取り（2）			会話文、叙述文の聞き取り	講義
10	文章の聞き取り（3）			会話文、叙述文の聞き取り	講義
11	理解度チェック。リスニング実践（1）	小テスト	5	あるテーマについて聞き取った情報を正確にアウトプットする	実技
12	リスニング実践（2）			あるテーマについて聞き取った情報を正確にアウトプットする	実技
13	中国語検定リスニング練習（1）			中検4級の過去問に挑戦	講義
14	中国語検定リスニング練習（2）			中検4級の過去問に挑戦	講義
15	理解度チェック。総復習	小テスト	5	これまでのまとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
100点満点（小テスト20点、期末筆記試験80点）	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	適宜プリント提供

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			業界英会話			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
会話を重視した授業。進路に向けて最低限の知識が付くよう、自身の話したいことを言葉にして学ぶ。 またレストランや空港でも対応できるよう、基本的なサービスに必要なコミュニケーション力を身に付け、外国人のお客様に抵抗なく対応できるようにする。	授業で学んだことを、オンラインレッスンでNative講師と実践する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション、自己紹介	実技	5	授業の進め方、自己紹介の基本	講義
2	レストラン英会話①			レストランでの必要な英語	講義
3	レストラン英会話②			レストランでの必要な英語	講義
4	オンラインレッスンＩＤ作成/ホテル英会話①			IDを作成する/ホテルで使える英語を学ぶ	講義
5	レストラン実技試験	実技 課題	15 5	実技試験/課題	講義
6	ホテル英会話②	課題	5	オンラインレッスン① ホテルで使える英語を学ぶ	講義
7	ホテル英会話③	課題	5	オンラインレッスン② ホテルで使える英語を学ぶ	講義
8	Listening①	課題 筆記	5 15	オンラインレッスン③ 機内アナウンスを学ぶ	講義
9	Listening②	課題	5	オンラインレッスン④ 機内アナウンスを学ぶ	講義
10	トラベル英会話①	課題	5	オンら人レッスン⑤ 空港での英語を学ぶ	講義
11	トラベル英会話②	課題	5	オンラインレッスン⑥ 入国審査での英語を学ぶ	講義
12	トラベル英会話③	課題 筆記	5 15	オンラインレッスン⑦ 観光で使える英語を学ぶ	講義
13	ショッピング①	課題	5	オンラインレッスン⑧ 買い物での英語を学ぶ	講義
14	ショッピング②	課題	5	オンラインレッスン⑨ 買い物での英語をを学ぶ（応用）	講義
15	まとめ			前期の総まとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			実践PCスキル			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
「Word」「Excel」ともに、各機能を理解しながら、社会人になってからもよく使用する機能を中心に学習し活用できるようになる。	・達成目標を目指して、Word・Excelの機能的な学習します。 Word：文書の編集・ｸﾞﾘｰﾃｨﾝｸﾞｶｰﾄﾞの作成 など Excel：見積書・グラフ・日程表の作成など ・Word/Excel以外に個人情報や著作権などの情報倫理を学び、Ｅメールの送り方も学習します。 ・授業のはじめに10分入力と、10分デザインをします。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ガイダンス/フォトブック 【W】Eメールの送り方	課	5	今後の授業を説明。フォトブック構成。 【W】Eメールの送り方・テンプレート	講義
2	【W】文書の編集/情報倫理 課題案内			段組み・改ページ・タブまで学習する 課題案内	講義
3	【W】課題作成	筆・課①	25	情報倫理についての筆記試験 前回学習した内容でテーマに沿って課題を作成する	講義
4	【W】お絵かき・グリーティングカードの作成	課②	15	図形やワードアートを使ってｸﾞﾘｰﾃｨﾝｸﾞｶｰﾄﾞを作成する	講義
5	【W】履歴書の作成			Wordを使って履歴書テンプレートを作成する	講義
6	【E】基本操作・四則計算			基本的な操作に簡単な計算を学習する	講義
7	【E】関数・表作成			簡単な関数・表の作成を学習する	講義
8	【E】見積書フォームの作成			見積り作成に必要な機能と関数を学習し、 見積書を完成させる（入力規則・応用	講義
9	【E】復習・グラフ・シート操作			グラフの特性を知り作成する。 Ｅｘｃｅｌシート操作の学習。	講義
10					講義
11	【E】Ｅｘｃｅｌ総復習・授業内試験	実	30	Ｅｘｃｅｌ総復習・授業内試験	講義
12	【E】スケジュール表作成・印刷設定 表作成の活用・課題作成			白紙から管理表を作成する。印刷設定を学習する！ユーザー定義・条件付き書式・ハイパーリンクの操作学習	講義
13	【E】課題作成			今まで学習した機能を使って日程表とポスター 作成。フォトブックを仕上げる。	講義
14		課③・課④	25		講義
15	総復習 フィードバック			これまでの学習内容の振り返り	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	オリジナル資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			接客中国語（会話）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
①中国語の発音を身につける。 ②基本的な文法を身につけ、単語を入れ替えていろいろな場面においての会話ができる。 ③中国語で接客することができる	①発音を繰り返し練習する。 ②新しい単語・表現を身につける。 ③様々な場面での会話を練習する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	中国語の発音(母音)			母音の発音を正しく知る	講義
3	中国語の発音(子音)			死因の発音を正しく知る	講義
4	自己紹介			発音練習・自己紹介・人称代名詞	講義
5	数字・曜日・月日			数字や曜日、月日の言い方を覚える	講義
6	時間			時間に関わる表現を覚える	講義
7	ホテルの施設、案内			ホテル施設の用語・簡単な案内	講義
8	復習・テスト			学習した内容を定着させる。	講義
9	いくらですか。			単位・値段の言い方を覚える	講義
10	レストランでの会話①			レストランでの簡単な会話を覚える	講義
11	レストランでの会話②			レストランでの簡単な会話を覚える	講義
12	復習・テスト			学習した内容を定着させる。	講義
13	買い物①			お金の使い方、商品に関する表現を覚える	講義
14	買い物②			お金の使い方、商品に関する表現を覚える	講義
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	「実用　中国語Ⅰ」 配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			日本文化研究			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
・世界とも比較しながら、日本文化に関わる様々なテーマに沿った基礎知識を習得する。 ・既成事実に疑問を持ち、自ら調べ、考える力を育成する。	・日本各地の「歴史」「文化」「行事」「料理」「歌」など、分野別に講義を進めるとともに、体験や学生自身で調べ学習を行うことで教養を深めていく。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業の進め方を理解する	講義
2	導入（日本文化と海外文化の違い）			日本文化と海外文化の比較①（公共交通機関・建築・映像産業・働き方など）	講義
3	日本と海外のマナーについて 和食のマナー（※箸を持参してください）			日本文化と海外文化の比較②（マナー） 和食のマナーを習得する	実技
4	小テスト（和食のマナー） 日本の年中行事について	筆記①	10	祝日、行事ごとの由来について調べ、学ぶ	講義
5	日本の歌謡曲・ファッション			日本歌謡曲のと流行したファッションを知る・歌ってみる	講義
6	日本の遊びを知ろう・体験しよう	実技	10	伝統的な日本の遊びを体験し、学びを深める	講義
7	日本各地のお祭りについて			日本各地のお祭りについて学ぶ	実技
8	小テスト（祝日・祭り） 神社仏閣・写経体験	筆記② 課題①	１０ 10	神社・仏閣について知る 写経体験で集中力を高める	実技
9	日本の漢字と方言について知ろう	課題②	10	漢字の歴史・外来語・方言について学びを深める	講義
10	地方文化について研究①	課題③	10	グループに分かれて各テーマについて深く調べる（文化・料理・言葉・地名・暮らし）	実技
11	地方文化について発表	発表①	15	グループごとに発表・フィードバック	実技
12	地方文化について研究②	課題④	10	グループに分かれて各テーマについて深く調べる（文化・料理・言葉・地名・暮らし）	実技
13	地方文化について発表	発表②	15	グループごとに発表・フィードバック	実技
14	クイズ大会			クイズ大会にて学びを確認する	講義
15	総復習				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			文章表現			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
自分の考えを分にする能力を身に着け、日本語で美しい文章が書けるようになる。 ・日本語の語彙力を増やす ・文章力を養う ・考えを形にする	講義形式 前期：日本語での作文 後期：中級レベルの文法・語彙力を取り入れた文章が書けるようになる。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			なぜ日本語を学ぶのか？理解を深める	講義
2	単語・表現を学ぶ①四季			様々な単語・表現方法を学ぶ	講義
3	単語・表現を学ぶ②感性	課題	10	様々な単語・表現方法を学ぶ	講義
4	作文演習①			学びを活かした文章を作る	講義
5	作文発表①	実技	15	様々な作文の発表を聞くことにより、自分の引き出しを増やす	実技
6	単語・表現を学ぶ③動作			様々な単語・表現方法を学ぶ	講義
7	単語・表現を学ぶ④考え方	課題	10	様々な単語・表現方法を学ぶ	講義
8	作文演習②	課題	10	学びを活かした文章を作る	講義
9	作文発表②	実技	15	様々な作文の発表を聞くことにより、自分の引き出しを増やす	実技
10	単語・表現を学ぶ⑤日本の文化			様々な単語・表現方法を学ぶ	講義
11	単語・表現を学ぶ⑥中国の文化	課題	10	様々な単語・表現方法を学ぶ	講義
12	作文演習③			学びを活かした文章を作る	講義
13	作文演習④	課題	15	学びを活かした文章を作る	講義
14	作文発表③	実技	15	様々な作文の発表を聞くことにより、自分の引き出しを増やす	実技
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			キャリアガイダンス			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
1．業界・企業の特色を理解する 2．内定につながる各対策 3．納得できる進路の決定	授業形態：講義 ・就職活動の流れを理解し自分で就活する力をつける ・面接での自己表現力を身につける ・面接での柔軟性、対応力を実践しみにつける

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション・就活の進め方			授業の目的、意義、就活の進め方を理解	
2	書類の書き方①	課題①	15	履歴書作成のポイント①・自己分析、事前課題の振返りと完成（自己PR）	
3	書類の書き方②			履歴書作成のポイント②・志望動機作成のポイント	
4	説明会での重要なポイント、企業研究について	課題②	15	説明会参加におけるポイントを理解 求人票の理解・就職セミナーⅠについて	
5	面接対策①　講義			面接の基本について理解する	
6	面接対策②　実践	課題③	15	面接の質問対策（よくある質問）	
7	面接練習（実技試験）	実技①	15	様々な質問に対し臨機応変に対応する	
8	グループディスカッション対策①　講義			グループディスカッションのポイントを理解する	
9	グループディスカッション対策②　実践			グループディスカッションの実践	
10	グループディスカッション対策③（実技試験）	実技②	10	グループディスカッション実技練習	
11	面接練習③　応用（実技試験）	実技③	15	様々な質問に対し臨機応変に対応する	
12	面接練習④　応用（実技試験）	実技④	15	様々な質問に対し臨機応変に対応する	
13	企業研究			企業研究の方法や就職情報サイトの活用方法を知る	
14	振り返り・今後の就活について			振り返りと今後の対策・就活書類の説明	
15	まとめ			これまでの総復習・就職セミナーⅡの準備を行う	

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　80点以上 B　70点以上 C　60点以上 D　59点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			コミュニケーション中国語（会話）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
①中国語の正しい発音を身につける。 ②基本的な言葉を覚え、簡単な会話ができるようにする。 ③中国人のお客様にご案内ができるようになる。	①正しい発音を身につけるために繰り返し練習する。 ②新しい単語、表現を繰り返し練習する。 ③実際の現場を想定した会話を繰り返し練習する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	前期複習			復習することで学習内容を定着させる	講義
3	第一課 週末は何をしますか			形容詞の用法を身につける	講義
4	第二課 全部でいくらですか			お金、料金の表現を身につける	講義
5	第三課 電車で台南に行きます	課題	10	交通手段の名前を表す	講義
6	復習	筆記	20	復習することで学習内容を定着させる	講義
7	第四課 休みはどこに行きますか①			動詞、場所を表す	講義
8	第四課 休みはどこに行きますか②			動詞、場所を表す	講義
9	第五課 台湾の果物は美味しいです①	課題	10	食べ物の色と香りを説明する。	講義
10	第五課 台湾の果物は美味しいです②			食べ物の色と香りを説明する。	講義
11	復習	筆記	20	復習することで学習内容を定着させる	講義
12	第六課 とても気分が悪いです①			自分や他人の体調を述べる	講義
13	第六課 とても気分が悪いです②	課題	10	自分や他人の体調を述べる	講義
14	復習	筆記	20	復習することで学習内容を定着させる	講義
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	「みんなの中国語　応用編」

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			スピーチトレーニング			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
１年次の結びに中国語で１年間の成果発表ができるようになる。 中国語で話し、伝える・伝わる楽しみを学ぶ。	前半：講義形式でスピーチ内容をとりまとめる 後半：スピーチに向けての演習

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション 現状のプレゼンテーションの確認			今の立ち位置を知る	講義
2	自己分析①成果の振り返り			アイデア出し	講義
3	自己分析②テーマ設定	課題	10	方向性を決め。スピーチ草稿に取り組む	講義
4	スピーチ原稿作成①			スピーチ内容を作成・まとめる	講義
5	スピーチ原稿作成②	課題	10	スピーチ内容を作成・まとめる	講義
6	中間発表演習	実技	10	中間発表にむけてリハーサルをとり行う	講義
7	中間発表①	課題	15	発表の練習、さらに改良するアイデアをもらう	講義
8	中間発表②	実技	15	発表の練習、さらに改良するアイデアをもらう	講義
9	文章を中国語にトランスレート①			作成した文章をスピーチに仕上げる	講義
10	文章を中国語にトランスレート②	実技	10	作成した文章をスピーチに仕上げる	講義
11	発表演習①			本番に向けてリハーサルをとり行う	講義
12	発表演習②	実技	10	本番に向けてリハーサルをとり行う	講義
13	発表①	課題	15	発表をとり行う	講義
14	発表②	実技	15	発表をとり行う	講義
15	総復習 フィードバック	課題	10	総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			ビジネスプレゼンテーション			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
社会人として必要なプレゼンテーションスキルを習得する。 またチームビルディングの重要性を理解するとともに、主体的に行動できる人材となる	BTS（少人数オーダーメイド式学習法）を取り入れ、PDCAサイクルを使用しながらチームでプロジェクトの構想、発表を行う

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション 前期振り返り			前期の内容を振り返り、今後の授業の流れや目的を理解する	講義
2	BTS企画構想（チーム）	課題	10	前期で決めたテーマを基に、より具体的な企画を構想する	講義
3	プレゼンテーション技法（PREP構造） BTS企画制作	課題	5	PREP構造を理解し、論理的なプレゼンテーションスキルを習得する	講義
4	プレゼンテーション技法（図解の仕方） BTS企画制作	課題	5	効果的な図解の使用方法を学び、自身のプレゼンテーションに取り入れる	講義
5	プレゼンテーション技法（ストーリーテリング→TAPS）BTS企画制作	課題	5	相手に伝えたい思いやコンセプトを、印象的なエピソードを交えて伝える手段を学ぶ	講義
6	プレゼンテーション技法（身体感覚） BTS企画制作	課題	5	身体を使い、聴き手の五感に訴えられるスキルを習得する	講義
7	プレゼンテーション技法（接客販売士） BTS企画制作	課題	5	接客販売士が駆使しているプレゼン手法を学び、自身のプレゼンテーション力を向上させる	講義
8	BTS企画発表準備			校内発表に向けてチームで発表準備を行う	講義
9	BTS企画発表準備			校内発表に向けてチームで発表準備を行う	講義
10	BTS企画発表準備（リハーサル）	実技	10	校内発表に向けてリハーサル実施する	実技
11	BTS校内発表会	課題 実技	１０ ２０	校内発表	実技
12	BTS校内発表フィードバック	課題	5	フィードバックを基に検証を行い、改善内容を検討する	講義
13	PR動画準備（計画、絵コンテ作成）	課題	10	効果的なPR方法を考える 内容に応じた絵コンテを作成	講義
14	PR動画準備（撮影、編集）			前週に計画したPR動画の撮影、編集	講義
15	PR動画発表、振り返り	実技	10	PR動画の発表、全体振り返り	実技

追試詳細	達成度評価	使用教材
	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			マナープロトコール検定対策			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
1.社会人として必須のマナーやプロトコール（国際儀礼）に関わる知識と技能を学ぶとともに日本の伝統文化に基づくしきたりやマナーを理解し身につける。 2.マナー・プロトコール検定3級合格を目指す。	テキスト『マナー&プロトコールの基礎知識』に沿って 授業を実施し、知識を習得する。 過去問題に取り組み、知識を定着させ、検定合格を目指す。検定合格にむけ、家庭学習も奨励する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション マナーとは何か/マナーの歴史と意味			序章・第1章を理解し、検定対策問題を解く	講義
2	国際人としてのプロトコール			第2章を理解し、検定対策問題を解く	講義
3	社会人に必要なマナー	筆記①	20	第3章を理解し、検定対策問題を解く	講義
4	ビジネスシーンでのマナー①			第4章を理解し、検定対策問題を解く	講義
5	ビジネスシーンでのマナー②	筆記②	20	第4章を理解し、検定対策問題を解く	講義
6	食事のマナー①			第5章を理解し、検定対策問題を解く	講義
7	食事のマナー②	筆記③	20	第5章を理解し、検定対策問題を解く	講義
8	「冠」のしきたり			第7章を理解し、検定対策問題を解く	講義
9	「婚」のしきたり	筆記④	20	第8章を理解し、検定対策問題を解く	講義
10	「葬」のしきたり			第9章を理解し、検定対策問題を解く	講義
11	「祭」のしきたり	筆記⑤	20	第10章を理解し、検定対策問題を解く	講義
12	検定直前対策			検定前の再復習	講義
13	日常のマナー			検定外のマナーについて習得する①	講義
14	日常のマナー			検定外のマナーについて習得する②	講義
15	まとめ			前期の振り返り	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	・マナー＆プロトコールの基礎知識 ・マナー・プロトコール検定2級・3級問題集

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			異文化研究			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
・中国/台湾の文化や歴史を知り、語学習得の幅を広げる。 ・関連各国の文化・歴史を知ることで、日本、中国、台湾に関する理解を深める。。	講義形式を主とし、オンラインを活用したり、外国人留学生の協力を得るなどして理解を深める。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション				講義
2	中国の歴史①			中国の歴史を理解する①	講義
3	中国の歴史②			中国の歴史を理解する②	講義
4	台湾の歴史			台湾の歴史を理解する	講義
5	中国の文化①	筆記	30	中国の文化を理解する①	講義
6	中国の文化②			中国の文化を理解する②	講義
7	台湾のの文化			台湾の文化を理解する	講義
8	台湾の現在（オンライン）	課題	10	オンラインを通じて台湾の現在を知る	講義
9	関連各国の文化・歴史	筆記	30	香港・マカオの文化・歴史を理解する	講義
10	関連各国の文化・歴史			タイの文化・歴史を理解する	講義
11	関連各国の文化・歴史			ベトナムの文化・歴史を理解する	講義
12	関連各国の文化・歴史			韓国の文化・歴史を理解する	講義
13	関連各国の文化・歴史			アメリカの文化・歴史を理解する	講義
14	関連各国の文化・歴史	筆記	30	ヨーロッパ諸国の文化・歴史を理解する	講義
15	まとめ				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布プリント

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			基礎中国語（書き）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
簡体字と繁体字の違いを知り、必要に応じて各字体の使い分けができるようにする。	講義、授業内筆記テスト、期末試験。 前半は中検対策で簡体字使用をメインにし、中検受験後は留学準備として繁体字を使った授業へシフトする。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	２つの目的語を取る動詞述語文			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
2	兼語文			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
3	「会」と「能」			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
4	理解度チェック。テーマ作文取り組み	筆記	5	これまで学習した文法を使って小作文作成	講義
5	時量補語・動量補語			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
6	程度補語・結果補語			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
7	理解度チェック。テーマ作文取り組み	筆記	5	これまで学習した文法を使って小作文作成	講義
8	方向補語・可能補語			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
9	比較文			文法構造の理解。簡体字を使って作文	講義
10	理解度チェック。テーマ作文取り組み	筆記	5	これまで学習した文法を使って小作文作成	講義
11	繁体字でこれまでの文法をおさらい（1）			挨拶、自己紹介、述語文、連動文	講義
12	繁体字でこれまでの文法をおさらい（2）			存在、動詞アスペクト	講義
13	繁体字でこれまでの文法をおさらい（3）			語気助詞「了」、２つの目的語を取る動詞述語文	講義
14	繁体字でこれまでの文法をおさらい（4）			補語、比較文	講義
15	繁体字の理解度チェック	筆記	5	繁体字での文法	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料、中国語で書いてみよう（三修社）

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			基礎中国語（読解）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
簡体字を中心に学習し簡単な文章を理解できるようにする。中検4級レベルの読解力を身に付ける。	講義、演習、授業内筆記テスト、期末試験。 演習を多く取り入れ、読解のスピードを上げる。簡体字をメインで学習し、終盤に繁体字の読解演習も行う。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	簡体字の読解基礎（7）			前期で学習した文法を使った読解演習（穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
2	簡体字の読解基礎（8）			前期で学習した文法を使った読解演習（穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
3	簡体字の読解基礎（9）			前期で学習した文法を使った読解演習（穴埋め・並べ替え・中→日訳）	講義
4	理解度チェック	筆記	5		講義
5	簡体字の読解・長文（1）			長文読解力をつける	講義
6	簡体字の読解・長文（2）			長文読解力をつける	講義
7	簡体字の読解・長文（3）			長文読解力をつける	講義
8	理解度チェック	筆記	5		講義
9	これまでの復習			これまでに学習した内容を復習	講義
10	簡体字でニュース記事を読む（1）			ニュース記事の表現方法を学ぶ	講義
11	簡体字でニュース記事を読む（2）			ニュース記事の表現方法を学ぶ	講義
12	繁体字の文章読解（1）			繁体字のコラムを読む	講義
13	繁体字の文章読解（2）			繁体字のコラムを読む	講義
14	繁体字の文章読解（3）			繁体字のコラムを読む	講義
15	繁体字の理解度チェック	筆記	5		講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　80点以上 B　70点以上 C　60点以上 D　59点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			基礎中国語（聞き取り）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
簡単な会話を聞き取れるようになる。中検4級合格レベルのリスニング力をつける。音声と資格情報を同時に処理する方法の基礎を学ぶ。	講義、演習、授業内テスト、期末試験。 様々な形式の聞き取り問題を取り入れる。終盤は画像や資料を見ながら音声問題に答える。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	前期のおさらい			前期で学んだことを演習形式で復習	講義
2	一問一答演習（1）			①質問　②回答の選択肢を聞いて答える	講義
3	一問一答演習（2）			①質問　②回答の選択肢を聞いて答える	講義
4	一問一答演習（3）			①質問　②回答の選択肢を聞いて答える	講義
5	理解度チェック	実技	10		講義
6	内容理解演習（1）			長めの文章を聞き、音声による質問に答える。	講義
7	内容理解演習（1）			長めの文章を聞き、音声による質問に答える。	講義
8	内容理解演習（1）			長めの文章を聞き、音声による質問に答える。	講義
9	内容理解演習（1）			長めの文章を聞き、音声による質問に答える。	講義
10	理解度チェック	実技	10		講義
11	これまでの復習			これまで学習した内容を総復習	講義
12	シチュエーション理解（1）			イラスト、図などを見ながら音声による質問に答える	講義
13	シチュエーション理解（2）			イラスト、図などを見ながら音声による質問に答える	講義
14	中国語のメディアを聞く（1）			テレビ、ラジオなどの音声メディアを使ってリスニング力を鍛える	講義
15	中国語のメディアを聞く（2）			テレビ、ラジオなどの音声メディアを使ってリスニング力を鍛える	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			業界英会話			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
●身近なトピックを通して日常英会話を学び、自身の伝えたいことを表現できるようにする。	発音を重視し、きれいな英語を習得する

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション、自己紹介	実技	5	授業の進め方、自己紹介応用編	講義
2	コミュニケーション①			友人作りに使える英語を学ぶ	講義
3	コミュニケーション②			授業で使える英語を学ぶ	講義
4	生活①	筆記	10	交通で使える英語を学ぶ	講義
5	生活②			寮や学内で使える英語を学ぶ	講義
6	トラブル①			病院で使える英会話	講義
7	トラブル②			荷物紛失、事故の時に使える英会話	講義
8	課題発表/個人ワーク①	筆記	15	外国人に日本文化を伝える	講義
9	個人ワーク②			課題に沿ったワーク	講義
10	個人ワーク③			課題に沿ったワーク	講義
11	個人ワーク④	課題	20	リハーサル	講義
12	発表	実技	20	日本の文化案内実技試験	実技
13	テスト対策			次週のテスト対策	講義
14	実力テスト	筆記	30	オンラインレッスン⑨ 買い物での英語をを学ぶ（応用）	講義
15	まとめ			後期の総まとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			実践PCスキル			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
・プレゼンテーション検定（３級及び２級）が取得できる操作を学習し、検定合格を目指します。 ・検定内容以外でも、プレゼンに効果的なＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの応用機能を学習し、活用できるようになります。	・達成目標を目指して、ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基本操作と検定特有の解答方法を習得します。 ・検定申し込み後は、授業の前半に「検定学習」をし、　後半にはプレゼンに効果的な応用機能を活用した　「課題作成」を行います。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ガイダンス／現状確認／ＰＰＴアプリの紹介			授業の進め方・検定の案内	講義
2	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基礎Ⅰ			スライド番号・背景・文字の挿入 図形描画・画像の挿入・スライド挿入	講義
3	ＰｏｗｅｒＰｏｉｎｔの基礎Ⅱ 授業内試験①	実	10	アニメーションの挿入・表の挿入 ・箇条書き記号　／　アニメ無のテスト	講義
4	検定３級にチャレンジ／検定２級の操作			３級練習問題 アニメーションの応用・表の加工	講義
5	検定２級/授業内試験②	実	15	その他の機能・注意事項/既定の図形 検定３級レベルのテスト	講義
6	検定対策／課題案内及び作成			スライド開始番号・画像の保存と挿入 課題の案内及び作成開始	講義
7	検定対策／課題作成	課	10	検定問題にチャレンジ 課題の作成	講義
8	検定対策／課題作成	課	10	検定問題にチャレンジ 課題の作成	講義
9	課題作成及び提出	課	10	検定問題にチャレンジ 課題の作成及び提出	講義
10	プレゼンに役立つ機能			スライドマスタ・配布資料の印刷 アニメーションのタイミング設定	講義
11	検定対策／課題作成	課	15	検定問題にチャレンジ 課題の作成	講義
12	復習／授業内試験③	実	15	検定２級レベルのテスト	講義
13	課題作成及び提出			課題の作成及び提出	講義
14		課	15		講義
15	総復習 フィードバック			これまでの学習内容の振り返り	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	オリジナル資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			接客中国語（会話）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
①中国語の発音を正しく覚える。 ②基本的な文法を身につけ、単語を入れ替えるだけでも場面に応じた言い方ができる。 ③中国からのお客様にも自信を持って応対することができる。	①発音、単語を覚えるために、繰り返し練習する。 ②学習済みの内容を復習する。 ③会話力をアップするためロールプレイをする。 ④授業中記憶した内容をみんなの前で発表する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	前期の復習			前期に学んだことをマスターする	講義
3	第7課　この服はいくらですか			値段の聞き方＆答え方がわかる	講義
4	第8課　このパソコンは高いです			形容詞の使い方が理解ですき	講義
5	復習	実技	20	学習済みの内容を定着させる	実技
6	第9課　トイレはどこにありますか			場所の聞き方がわかる	講義
7	第10課　私は中国へ行きたいです			「～をしたい」が言える	講義
8	復習	実技	20	学習済みの内容を定着させる	実技
9	第11課　ご飯を食べましたか			完了形が理解できる	講義
10	第12課　彼女に会ったことがあります。			「～したことがある」との言い方が理解できる	講義
11	復習	実技	20	学習済みの内容を定着させる	実技
12	第13課　私は泳ぎます。			「～ができる」との言い方が理解出来る	講義
13	復習	実技	20	学習済みの内容を定着させる	実技
14	接客ロールプレイング	実技	20	現場で起こりえる会話を習得する	実技
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	「実用　中国語Ⅰ」

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			中国語検定対策			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
11月に行われる「中国語検定」4級合格を目指し、その対策を行う。 検定終了後は3級の問題にもチャレンジする。	筆記問題の対策とリスニング問題の対策を交互に行い、同じペースでのレベルアップを目指す。 試験直前は集中して問題を解く。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション				講義
2	中国語検定4級対策①			筆記対策①	講義
3	中国語検定4級対策②			リスニング対策①	講義
4	中国語検定4級対策③	筆記	25	筆記対策②	講義
5	中国語検定4級対策④			リスニング対策②	講義
6	中国語検定4級対策⑤			筆記対策③	講義
7	中国語検定4級対策⑥	筆記	25	リスニング対策③	講義
8	中国語検定4級対策⑨			対策総まとめ①	講義
9	中国語検定4級対策⑩			対策総まとめ②	講義
10	中国語検定4級振り返り	筆記	25	検定振り返り	講義
11	中国語検定3級対策①			3級の問題にチャレンジ①	講義
12	中国語検定3級対策②			3級の問題にチャレンジ②	講義
13	中国語検定3級対策③			3級の問題にチャレンジ③	講義
14	中国語検定3級対策④	筆記	25	3級の問題にチャレンジ④	講義
15	まとめ				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	合格奪取！中国語検定4級トレーニングブック（仮）

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	1	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			繁体字演習			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
台湾華語の独自の読み方や発音を習得することで、留学前に基礎知識を学習することができ、台湾留学後も スムーズな学習へ入ることができる。	・テキストを中心に、発音やよく使う表現の学習をする。 ・単語帳を使い単語テストを実施し語彙力をアップを目指す

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ガイダンス・中国語って１つじゃないの？			授業概要説明・中国語って１つじゃないの？	講義
2	繁体字の入力の仕方			繁体字の入力の仕方を学習する	講義
3	単語学習・はじめまして	課題	10	単語学習＆人称代名詞「是」の文・名前の言い方	講義
4	単語学習・台北ホテルへ行きます			単語学習＆疑問詩疑問文、指示代名詞	講義
5	単語テスト・注文したいのですが①	筆記	10	これまで学習した単語テスト＆選択疑問文	講義
6	単語学習・注文したいのですが②			単語学習・助動詞「要」助動詞「可以」	講義
7	復習・授業内テスト	筆記	30	これまでの復習と授業内テスト	講義
8	単語学習・いくらですか			単語学習・ものの数え方・指示代名詞	講義
9	単語テスト・広いですね	筆記	10	単語テスト・形容詞述語文	講義
10	単語学習・小銭を持っていません			単語学習・100以上の数・所有を表す「有」	講義
11	単語学習・旅行が好きです			単語学習・趣味の言い方・経験を表す「過」	講義
12	単語テスト・日本で会いましょう	筆記	10	単語テスト・「太～了」・前置詞「在」	講義
13	単語学習・よく使うフレーズ			単語学習・よく使うフレーズを学ぶ	講義
14	総復習・授業内テスト	筆記	30	これまで学習した内容の復習とテスト	講義
15	これまでの復習			これまで学習した内容のまとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
3回目・・・母数減らし 5回目・7回目・9回目・12回目・14回目・・・ 次回授業終了後に追試を実施	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	・今日からはじめる台湾華語 ・台湾語単語はじめの1000

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			HSK検定対策（読解・作文）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
HSK5級取得に向けての検定対策授業。 中国語の新聞・雑誌を読んだり、中国語のテレビや映画を鑑賞することができ、中国語を用いて比較的整った作文を作ることができる。 2500語程度の常用中国語単語	講義形式 過去問をふまえながら、各単元毎にレベルアップを図る。 前期：基礎内容の復習・単語力を増やす 後期：ネイティブとの実践的な授業も取り入れ、作文のスキルアップ

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション 基礎的な中国語の復習①			受験目標をたて、合格にむけて自身の課題を洗い出す 基礎復習をとり行う	講義
2	基礎的な中国語の復習②	筆記	10	基礎復習をとり行う	講義
3	単語力向上①			テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
4	単語力向上②	課題	10	テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
5	単語力向上③			テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
6	過去問題演習①	筆記	15	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
7	ネイティブ講師との会話演習①	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、作文の勉強にも備える。	実技
8	読解力向上①			3～5回で培った単語力を活かし、読解問題に取り組む	講義
9	読解力向上①	課題	10	3～5回で培った単語力を活かし、読解問題に取り組む	講義
10	読解力向上①			3～5回で培った単語力を活かし、読解問題に取り組む	講義
11	過去問演習②・解説	筆記	10	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
12	ネイティブ講師との会話演習②	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、作文の勉強にも備える。	実技
13	過去問演習③・解説			自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
14	過去問演習④・解説	課題	15	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 中国語の新聞・雑誌 公認長文テキスト5級 公式過去問集5級

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			HSK検定対策（聞き取り）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
HSK5級取得に向けての検定対策授業。 中国語の新聞・雑誌を読んだり、中国語のテレビや映画を鑑賞することができ、中国語を用いて比較的整ったスピーチの聞き取りを行うことができる。 2500語程度の常用中国語単語	講義形式 過去問をふまえながら、各単元毎にレベルアップを図る。 前期：基礎内容の復習・単語力を増やす 後期：ネイティブとの実践的な授業も取り入れ、聞き取りのスキルアップ

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション 基礎的な中国語の復習①			受験目標をたて、合格にむけて自身の課題を洗い出す 基礎復習をとり行う	講義
2	基礎的な中国語の復習②	筆記	10	基礎復習をとり行う	講義
3	単語力向上①			テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
4	単語力向上②	課題	10	テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
5	単語力向上③			テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
6	過去問題演習①	筆記	15	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
7	ネイティブ講師との会話演習①	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、リスニングの勉強にも備える。	実技
8	リスニング力向上①			3～5回で培った単語力を活かし、聞き取り問題に取り組む	講義
9	リスニング力向上②	課題	10	3～5回で培った単語力を活かし、聞き取り問題に取り組む	講義
10	リスニング力向上③			3～5回で培った単語力を活かし、読解問題に取り組む	講義
11	過去問演習②・解説	筆記	10	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
12	ネイティブ講師との会話演習②	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、リスニングの勉強にも備える。	実技
13	過去問演習③・解説			自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
14	過去問演習④・解説	課題	15	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 中国語の新聞・雑誌 公認長文テキスト5級 公式過去問集5級

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			イベントプランニング			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
Japan Party」に向けての企画・打ち合わせ・準備を、外国語学科3科合同で一から自分達自身で創り上げていく授業	授業形態：講義 外国人の方との接点・交流を大きなコンセプトに、外国人の方々に日本文化を感じてもらい、楽しんで頂くイベント創りをする

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション・授業の進め方			自己紹介、ジャパンパーティとは	講義
2	コンセプト決め			今年のコンセプトを考える	講義
3	コンセプトプレゼン	実技	20	コンセプトプレゼンテーション	実技
4	Japan Party準備	実技	5	役割分担	講義
5	Japan Party準備	実技	5	屋台準備	実技
6	Japan Party準備	実技	5	屋台準備	実技
7	Japan Party準備	実技	5	屋台準備	実技
8	Japan Party準備	実技	5	ステージ出し物準備	実技
9	Japan Party準備	実技	5	ステージ出し物準備	実技
10	Japan Party準備	実技	5	ステージ出し物準備	実技
11	リハーサル	実技	10	屋台最終リハーサル	実技
12	リハーサル	実技	10	ステージ最終リハーサル	実技
13	本番（7月の第一土曜日）	実技	25	Japan Party本番	実技
14	振替休講			Japan Partyの振替休講	
15	振替休講			Japan Partyの振替休講	

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定 必要物を購入する時は、必ず担当教員の許可をえてからにすること。またレシートの裏にクラスと名前を記載すること。	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 プリント配布

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			キャリアガイダンス			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
1．内定につながる各対策 2．キャリア形成、キャリアビジョンに向き合う	授業形態：講義 ・面接での自己表現力を身につける ・面接での柔軟性、対応力を実践しみにつける ・自分の人生を自分でデザインする

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション・就活の進め方			授業の目的、意義、就活の進め方を理解	講義
2	合同グループ面接			実践を通して学び、本番に備える	講義
3	面接対策①	実技	20	ロールプレイング	講義
4	面接・書類対策③　内定者プログラム		5	・就職活動で苦手分野を克服する ・自身のキャリアプランを考える	講義
5	面接・書類対策④　内定者プログラム		5	・就職活動で苦手分野を克服する ・自身のキャリアプランを考える	講義
6	面接・書類対策⑤　内定者プログラム		5	・就職活動で苦手分野を克服する ・自身のキャリアプランを考える	講義
7	面接・書類対策⑤　内定者プログラム		5	・就職活動で苦手分野を克服する ・自身のキャリアプランを考える	講義
8	キャリアアップ講座①	課題	10	業界人によるキャリアアップ講座	講義
9	観光マーケット研究①	課題	10	様々な業界の仕事を知る	講義
10	キャリアアップ講座②	課題	10	業界人によるキャリアアップ講座	講義
11	観光マーケット研究②	課題	10	様々な業界の仕事を知る	講義
12	キャリアアップ講座②	課題	10	業界人によるキャリアアップ講座	講義
13	キャリアデザイン①			自己実現のために仕事を中心とした人生設計を行う	講義
14	キャリアデザイン②			自己実現のために仕事を中心とした人生設計を行う	講義
15	キャリアデザイン発表	実技	10	自身のキャリアデザインを共有する	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			セールスプロモーション			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
・機能ではなく、価値にお金を払ってもらうための連携した 営業・マーケティング・ＩＴを学ぶ。 ・商品販売の基礎と実践 ・学内での商品販売 【販売日】7月上旬予定	授業形態：講義 ・営業マンとしての心得、話し方 ・商品の売り方 ・企画書の作り方

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション・授業の進め方			自己紹介、モノを売るとは	講義
2	マーケティングとは	課題	10	マーケティング基礎を学ぶ	講義
3	3C分析	課題	10	3C分析を学ぶ	講義
4	売れる仕掛け研究①			モノが売れるしくみ	講義
5	売れる仕掛け研究②			インターネット販売戦略	講義
6	メンタルアップトレーニング①	筆記	20	感じの良い営業マンになるには	実技
7	メンタルアップトレーニング②			心が折れた時の対処法	実技
8	課題発表			オリジナル弁当販売	講義
9	マーケティング調査	課題	10	学生に需要のある食べ物を調査	講義
10	グループワーク			企画書とパワーポイントの作成	実技
11	グループワーク	実技	10	企画書とパワーポイントの作成	実技
12	リハーサル	実技	10	リハーサル	実技
13	本番	実技	20	プレゼンテーション本番	実技
14	販売	実技	10	1位のオリジナル弁当を販売する	実技
15	まとめ			前期の総まとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料 プリント配布

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			ビジネス中国語			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
ビジネス文書作成時の留意点を踏まえた上で、様々なビジネスシーンに対応できる中国語の文書作成能力を養う。	①ビジネスにおける中国語での語彙力を強化するために、プリント教材を基に毎回語彙テストを行う。 ②PCを使用しテーマに沿ってe-mailを作成する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	e-mail作成			e-mail作成の基本を習得する。	講義
3	Unit1			文書作成：「ミーティングを設定する」	講義
4	Unit2	筆記	20	「依頼をする」	講義
5	Unit3			「苦情に対応する」	講義
6	Unit4	筆記	20	「説明メール」	講義
7	Unit5			「値上げを通知する」	講義
8	Unit6	筆記	20	「ご案内メール」	講義
9	復習			復習することで学習内容を定着させる	講義
10	Unit7			「通知メール」	講義
11	Unit8	筆記	20	「確認メール」	講義
12	Unit9			「問い合わせ」	講義
13	Unit10			「お礼を伝える」	講義
14	Unit11	筆記	20	「苦情を伝える」	講義
15	総復習 フィードバック			作成したe-mailを総復習する	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			応用中国語（会話）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
さまざまなシチュエーションを想定した会話をマスターする。中国語で簡単な討論ができるようにする。	実技、講義、授業内テスト、期末試験。 授業は中国語のみで進行する。講義で高級レベルの語彙、用法を学びながら、シチュエーションに応じた豊富な表現方法を身に付ける。シチュエーション会話ではテーマに沿った内容を中国語で考えて討論形式で進行する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	自己紹介			中国語で基本的な自己紹介を一人3分行う	講義
2	第一課「意思意思就行了」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
3	第一課「意思意思就行了」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
4	シチュエーション会話			好きな食べ物、飲み物。どんなこだわりがある？	講義
5	第二課「我们可不是一见钟情」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
6	第二課「我们可不是一见钟情」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
7	シチュエーション会話			今までどこに旅行したことがある？	講義
8	第三課「梨可不能分着吃」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
9	第三課「梨可不能分着吃」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
10	シチュエーション会話			感謝したい人は誰？	講義
11	第四課「退休了也不闲着」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
12	第四課「退休了也不闲着」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
13	シチュエーション会話			今までで一番努力した事について	講義
14	現代会話研究			流行言葉や新しい用語を知る	講義
15	総復習				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料、高级汉语口语1（北京大学出版社）

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			応用中国語（文法）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
会話や閲読の幅を広げるための応用的な文法をマスターする。	講義、授業内テスト、期末試験。 講義メインで進行。品詞別に復習+応用法を解説し、幅広い表現方法を会得する。授業内テストで理解度を確認する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	様々な品詞と構文（1）			量詞、離合詞、連動文、兼語文、使役文	講義
2	様々な品詞と構文（2）			助動詞、前置詞、比較文、「把」構文、受身文	講義
3	様々な品詞と構文（3）			接続詞、疑問詞・副詞などによる反語文	講義
4	様々な品詞と構文（4）			副詞の「在」による進行を表す構文、助詞の「着」による持続を表す構文、存現文	講義
5	様々な品詞と構文（5）			助詞の「過」経験・完了、「了」完了・変化	講義
6	理解度チェック	筆記	5		講義
7	様々な補語（1）			数量補語、方向補語、	講義
8	様々な補語（2）			結果補語、可能補語	講義
9	様々な補語（3）			程度補語	講義
10	理解度チェック	筆記	5		講義
11	様々な類義語（1）			副詞の類義語	講義
12	様々な類義語（2）			量詞、名詞の類義語	講義
13	様々な類義語（3）			動詞、形容詞の類義語	講義
14	理解度チェック	筆記	5	接続し、前置詞の類義語	講義
15	総復習				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　80点以上 B　70点以上 C　60点以上 D　59点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			時事中国語			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
（前期） 中文Eメールの基本を学び、実際にビジネスマナーに沿ったEメールを読む力、書く力を身につける （後期） 新聞に沿った最新のニュースを読み解く	オリジナル資料を使いEメールを読んで要点をつかむ練習、 シンプルでわかりやすくＥメールを書く練習をしていく

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ガイダンス・中国語のメール			授業概要の説明・中文Eメールの基本	講義
2	中国語メール基礎①			メールの構成とネチケット	講義
3	中国語メール基礎②	課題	10	中国語での自己紹介をメールで作成する	講義
4	中国語メール基礎③			中国語での自己紹介をメールで作成する	講義
5	中国語メール応用①			問い合わせのメールについて学ぶ	講義
6	中国語メール応用②	課題	10	問い合わせのメールを作成する	講義
7	これまでの復習・授業内試験	実技	20	これまで学習した内容を復習・テスト	実技
8	【社内向け】中国語メール基礎①			社内連絡（会議）メール①	講義
9	【社内向け】中国語メール基礎②	課題	10	社内連絡（会議）メール②	講義
10	【社内向け】中国語メール基礎③			打ち合わせのメール①	講義
11	【社内向け】中国語メール基礎④	課題	10	打ち合わせのメール②	講義
12	中国語メール応用③	課題	10	お祝い・お悔みメール	講義
13	中国語メール応用④			謝罪・督促メール	講義
14	これまでの復習・総まとめテスト	実技	30	これまで学んだ内容のテストを実施	実技
15	総まとめ			前期に学んだ内容を復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
３回目・6回目・９回目・１１回目・１２回目・・・ 母数減らし ７回目・１４回目・・・次週授業終了後に追試実施	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	オリジナル資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			接客英会話			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
観光業界で必要となる基礎英会話力を養いながら、7月実施の「みんなの外国語検定（ブロンズ）」受験合格を目指し対策を行う。また留学前習得した基礎英会話のブラッシュアップをこの授業で行う。	授業形態：講義 検定の流れを意識し、対策を進めていく。 ブロンズレベルからシルバーレベルを目指す。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション・授業の進め方			みんなの外国語検定とは	講義
2	レストラン			店員目線の英会話を学ぶ（オーダー、会計）	講義
3	レストラン	筆記	15	店員目線の英会話を学ぶ（予約）	講義
4	買い物			店員目線の英会話を学ぶ（接客）	講義
5	買い物	筆記	15	店員目線の英会話を学ぶ（クレーム対処）	講義
6	検定対策①	筆記	10	ブロンズ検定の模擬問題実施①	講義
7	検定対策②	筆記	10	ブロンズ検定の模擬問題実施②	講義
8	検定対策③	筆記	10	ブロンズ検定の模擬問題実施③	講義
9	検定対策④	筆記	10	ブロンズ検定の模擬問題実施④	講義
10	検定対策⑤	筆記	10	ブロンズ検定の模擬問題実施⑤	講義
11	検定対策⑥	筆記	10	ブロンズ検定の模擬問題実施⑥	講義
12	検定対策⑦	筆記	10	ブロンズ検定の模擬問題実施⑦	講義
13	みんなの外国語検定			検定実施	講義
14	検定振り返り			シルバー検定にチャレンジ	講義
15	まとめ			前期の振り返り、英語クイズ大会	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 プリント配布

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			中国語PCスキル			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
パソコンを使って、中国語の入力方法を学びます。 また中国語でのインターネット検索も学習する ことで中国の文化や流行を知ることができます。 最終的には、中国語のプレゼンテーションに向けた スライド作成を目指します。	中国語でのタイピング練習。 インターネットを使った検索方法の学習。 中国のビジネスマナーにそったメール作成。 PowerPointを使ったスライド作成。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ガイダンス・簡体字のキーボードに 慣れる			授業の進め方を説明・簡体字のキーボードで練習する	実技
2	中国語タイピング練習（基礎） タイピングのコツをつかむ			簡体字での入力の際に気をつけること	実技
3	中国語でインターネット情報検索			中国語でのインターネット検索 中国の最新情報を知る	実技
4	中国語でのWordを学習する①			中国語でWordの文書作成。 書式設定・ユーザー定義など	実技
5	中国語でのWordを学習する②	課題	10	中国語でWordの文書作成。 差し込み文書・地図の作成など	実技
6	中国語でのビジネス文書作成①			実際に中国で使われているビジネス文書の 意味を知る	実技
7	中国語でのビジネス文書作成②	課題	15	実際に中国で使われているビジネス文書を 作成してみよう	実技
8	これまでの復習・授業内テスト	実技	25	これまで学習した内容を復習する。 授業内テスト	実技
9	課題の発表・作成			テーマにそった課題の作成（中国語で作成）	実技
10	課題作成			テーマにそった課題の作成（中国語で作成）	実技
11	課題作成			テーマにそった課題の作成（中国語で作成）	実技
12	課題作成			テーマにそった課題の作成（中国語で作成）	実技
13	リハーサル	課題	20	課題のリハーサル	実技
14	発表	実技	30	中国語で作成したものを中国語で発表する	実技
15	これまでの復習			これまで学習した内容の復習する	実技

追試詳細	達成度評価	使用教材
5回目＆7回目・・・母数減らし 8回目・13回目・14回目・・・講師が指定した日に提出 または追試を実施する	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			中国語プレゼンテーショントレーニング			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
前期より引き続き中国語の基礎習得 授業後半に中国語スピーチコンテスト（2～3分）を授業内で開催	講師の授業とオンラインレッスンにてスピーチに向けた発話演習を実施 毎回の授業冒頭にスピーチの練習を実施し最終のコンテストに向けて準備を進める 授業後半に成果発表として「私の将来」という題名でスピーチコンテストを実施

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	目標設定、原稿作成	課題	10	スピーチコンテスト用、日本語原稿作成	講義
3	オンラインレッスン①	課題	5	オンラインレッスン	講義
4	中国語スピーチ原稿作成スタート	筆記	10	「将来の夢」中国語原稿作成開始	講義
5	オンラインレッスン②③	課題	5	前期の復習＆スピーチの内容をオンラインで発表	講義
6	中国語スピーチ原稿確認	筆記	10	「将来の夢」中国語原稿を完成	講義
7	オンラインレッスン④⑤	課題	5	スピーチの内容をオンラインで発表	講義
8	中国語「交通、方向」	筆記	10	生活中国語「交通、方向」	講義
9	オンラインレッスン⑥⑦	課題	5	交通・方向	講義
10	中国語「買い物・食事」	筆記	10	生活中国語「買い物・食事」	講義
11	オンラインレッスン⑧⑨	課題	5	買い物・食事	講義
12	中国語「医療」	筆記	10	生活中国語「医療」	講義
13	中国語スピーチ練習			スピーチ練習	講義
14	中国語スピーチコンテスト	実技	20	スピーチコンテスト	実技
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			60	単位数	4	区分	専門	必修
科目名			中国語検定対策			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
6月に行われる「中国語検定」3級合格を目指し、その対策を行う。	筆記問題の対策とリスニング問題の対策を交互に行い、同じペースでのレベルアップを目指す。 試験直前は集中して問題を解く。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業概要説明	講義
2	中国語検定3級対策①			筆記対策①	講義
3	中国語検定3級対策②			リスニング対策①	講義
4	中国語検定3級対策③	筆記	25	筆記対策②	講義
5	中国語検定3級対策④			リスニング対策②	講義
6	中国語検定3級対策⑤			筆記対策③	講義
7	中国語検定3級対策⑥	筆記	25	リスニング対策③	講義
8	中国語検定3級対策⑦			筆記対策④	講義
9	中国語検定3級対策⑧			リスニング対策④	講義
10	中国語検定3級対策⑨	筆記	25	対策総まとめ①	講義
11	中国語検定3級対策⑩			対策総まとめ②	講義
12	中国語検定3級振り返り			検定振り返り	講義
13	中国語検定2級対策①			2級の問題にチャレンジ①	講義
14	中国語検定2級対策②	筆記	25	2級の問題にチャレンジ②	講義
15	まとめ			前期の総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	合格奪取！中国語検定3級 トレーニングブック 筆記問題編（仮） 合格奪取！中国語検定3級 トレーニングブック リスニング問題編（仮）

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			HSK検定対策（読解・作文）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
HSK4級取得に向けての検定対策授業。 中国語の新聞・雑誌を読んだり、中国語のテレビや映画を鑑賞することができ、中国語を用いて比較的整った作文を作ることができる。 2500語程度の常用中国語単語	講義形式 過去問をふまえながら、各単元毎にレベルアップを図る。 前期：基礎内容の復習・単語力を増やす 後期：ネイティブとの実践的な授業も取り入れ、作文のスキルアップ

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション 基礎的な中国語の復習①			受験目標をたて、合格にむけて自身の課題を洗い出す 基礎復習をとり行う	講義
2	基礎的な中国語の復習②	筆記	10	基礎復習をとり行う	講義
3	単語力向上①			テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
4	単語力向上②	課題	10	テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
5	単語力向上③			テキストを用いて、ボキャブラリーを増やす	講義
6	過去問題演習①	筆記	15	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
7	ネイティブ講師との会話演習①	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、作文の勉強にも備える。	実技
8	読解力向上①			3～5回で培った単語力を活かし、読解問題に取り組む	講義
9	読解力向上①	課題	10	3～5回で培った単語力を活かし、読解問題に取り組む	講義
10	読解力向上①			3～5回で培った単語力を活かし、読解問題に取り組む	講義
11	過去問演習②・解説	筆記	10	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
12	ネイティブ講師との会話演習②	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、作文の勉強にも備える。	実技
13	過去問演習③・解説			自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
14	過去問演習④・解説	課題	15	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 中国語の新聞・雑誌 公認長文テキスト4級 公式過去問集4級

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			HSK検定対策(聞き取り)			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
HSK4級取得に向けての検定対策授業。 前期学んだ内容をふまえ、リスニングを強化する。 中国語の新聞・雑誌を読んだり、中国語のテレビや映画を鑑賞することができ、中国語を用いて比較的整ったスピーチを聞き取ることができる。 2500語程度の常用中国語単語	講義形式 過去問をふまえながら、各単元毎にレベルアップを図る。 前期：基礎内容の復習・単語力を増やす 後期：ネイティブとの実践的な授業も取り入れ、聞き取りのスキルアップ

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション 前期の復習			合格にむけて自身の課題を洗い出す 前期の復習をとり行う	講義
2	ネイティブ講師との会話演習①	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、リスニングの勉強に備える。	講義
3	リスニングスキル向上①			長文のリスニングスキル向上を図る	講義
4	リスニングスキル向上②	課題	10	長文のリスニングスキル向上を図る	講義
5	過去問演習①・解説	筆記	10	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
6	ネイティブ講師との会話演習②	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、リスニングの勉強に備える。	講義
7	リスニングスキル向上③			長文のリスニングスキル向上を図る	講義
8	リスニングスキル向上④	課題	10	長文のリスニングスキル向上を図る	講義
9	スピーチ演習①内容設定・構文づくり			スピーチに備え、内容を選定、構文を作成する	講義
10	スピーチ演習②構文づくり・発表準備			構文を作成・発表準備をとり行う	講義
11	スピーチ演習③発表	実技	15	成果発表　兼　検定のリハーサル	講義
12	ネイティブ講師との会話演習③	実技	15	ネイティブとの実践演習をとり行い、リスニング・スピーチの練習をする	講義
13	中国の時事問題把握			頻出する・出題が予想される時事問題を学ぶ	講義
14	過去問演習②・解説	筆記	10	自分の現状を把握し、強化すべきポイントを見つめなおす	講義
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　80点以上 B　70点以上 C　60点以上 D　59点以下	配布資料 中国語の新聞・雑誌 公認長文テキスト4級 公式過去問集4級

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			Social Media Planning			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
SNSを利用したマーケティングを利用し 観光業界のアピール方法を3科合同で学び 英語・中国語・韓国語で観光動画を制作する	商品のイメージが沸き立つ動画撮影技術と 編集技術を学び、販売に結び付くツールを 作成できるようになる。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ソーシャルメディアとSNS 撮影基礎と企画			SMMとSNSの基本知識	講義
2	ソーシャルメディアとSNS 撮影基礎と企画			活用する動画の企画・撮影・編集について学ぶ	講義
3	スマホでカッコイイ動画撮影	課題	10	スマホの設定、撮影アングル、トランジションについて学ぶ	講義
4	編集基礎	課題	15	撮影した動画をスマホアプリで編集 飽きない動画作品の知識を学びます	講義
5	ドローン操作・ジンバルについて			ドローンについて基礎知識、ジンバルの役割の理解	講義
6	ドローン操作・ジンバルについて	課題	15	ドローン操作方法について理解	実技
7	ドローン演習フィールドワーク	実技	20	野外でのドローン飛行演習（2コマ）	講義
8	振替休講			フィールドワークの振替休講	講義
9	課題発表			大阪観光PR動画制作	講義
10	グループワーク			PR動画撮影地決定	講義
11	グループワーク			PR動画制作	実技
12	グループワーク			PR動画制作	実技
13	本番	実技	30	撮影	実技
14	編集	実技	10	撮影した動画を編集する	講義
15	まとめ			撮影動画鑑賞会	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 プリント配布

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			イベントプランニング			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
外国語学科3科合同でイベントを自分達自身で創り上げていく授業。	授業形態：講義 様々な国際交流や文化体験を取り入れたイベント創りをする

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション・授業の進め方	課題	10	授業内容について、チーム決め	講義
2	課題①アメリカの文化			ハロウィンについて	講義
3	グループワーク			英語科生を中心にハロウィンの準備	実技
4	グループワーク	課題	10	英語科生を中心にハロウィンの準備	実技
5	課題発表	実技	20	ハロウィンパーティ実施	実技
6	課題②韓国の文化			韓国料理について	講義
7	グループワーク			韓国語科生を中心に料理パフォーマンスの準備	実技
8	グループワーク			韓国語科生を中心に料理パフォーマンスの準備	実技
9	レストラン準備	課題	10	韓国レストラン準備	実技
10	課題発表	実技	20	韓国レストラン本番（2コマ分）	実技
11	振替休講			韓国レストランの振替休講	実技
12	課題②台湾の文化			旧正月について	講義
13	グループワーク			中国語科生を中心に旧正月イベントの準備	実技
14	グループワーク	課題	10	中国語科生を中心に旧正月イベントの準備	実技
15	課題発表	実技	20	旧正月イベント実施	実技

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定 必要物を購入する時は、必ず担当教員の許可を得てからにすること。またレシートの裏にクラスと名前を記載すること。	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 プリント配布

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			おもてなしプランニング			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
・日本の文化習慣を理解し、外国のゲストに紹介説明できる力をつける。 ・外国人をもてなすプランを企画・実践する力をつける。 ・魅力ある企画を効果的にプレゼンテーションできる力をつける。	・日本文化を中心に学び、正しく理解するとともに、日本の文化習慣を中国語で伝えられるようにしていく。 ・情報を収集し、創造力を持ってプランを企画していく。 ・外国人向けの旅行を実施するなかで、中国語で基礎的なガイドができるようにする。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	大阪の歴史と文化			学校のある大阪の歴史と文化について学ぶ	講義
3	ツアープランのプレゼン準備①	課題	10	学校周辺徒歩３０分以内にある史跡、ランドマークを調査する	講義
4	ツアープランのプレゼン準備②	課題	10	外国人ゲストに楽しく伝えるツアーを考案する	講義
5	ツアープランのプレゼン準備③			ツアープレゼンテーションの最終準備	講義
6	ツアープランのプレゼンテーション	実技	20	ツアーのプレゼンテーションを各自発表、採用するツアーを決定	実技
7	ツアー準備①			ツアーをガイディングするための知識を深める	講義
8	ツアー準備②	課題	10	自分の担当ポイントのプレゼンを作る	講義
9	ツアー準備③			どのようにガイディングしていくか具体的にシミュレーションする	講義
10	ウォーキングツアー	実技	20	ゲストを実際に案内し、各自担当箇所のプレゼンを行う	講義
11	ツアー振り返り	課題	20	ガイディングの振り返りを行う	講義
12	日本の事象・文化を中国語で表現①			日本の食文化を中国語で説明できるようになる	講義
13	日本の事象・文化を中国語で表現②	課題	10	日本の年中行事を中国語で説明できるようになる	講義
14	日本の事象・文化を中国語で表現③			日本の伝統工芸を中国語で説明できるようになる	実技
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
課題：翌週授業までに提出認定 実技：担当講師と日程相談の上、実施	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			セールスプロモーション			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
外部企業との産学連携授業。訪日外国人旅行者に対し、ホテルの新たな宿泊プランを考案する	授業形態：講義 主にグループワークとなります。前期で学んだマーケティングや販売戦略を元に現代のニーズに合ったものを考えていく。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション・授業の進め方			前期の復習	講義
2	課題発表			ホテルの新規宿泊プランを考える	講義
3	フィールドワーク	課題	20	ホテルにて趣旨説明	講義
4	グループワーク			FW内で感じたことをグループ内で共有	講義
5	グループワーク			各チームでコンセプトを考える	講義
6	グループワーク			マーケティング調査	実技
7	グループワーク			PPT作成	実技
8	グループワーク			台本作成	講義
9	リハーサル	課題	20	リハーサル	講義
10	本番	実技	30	プレゼンテーション本番	実技
11	結果発表			順位発表	実技
12	制作物作成			選ばれた商品のパンフレット制作	実技
13	制作物作成	課題	10	選ばれた商品のパンフレット制作	実技
14	発表	実技	20	パンフレット選考会	実技
15	まとめ			後期の総まとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 プリント配布

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			ゼミナール			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
①観光の目的となるマーケットについて知識を習得する ②幅広い客層の様々な目的に対応できる広い分野の教養を身に付ける	各分野のプロ、詳しい先生をスポットで招き、人気のテーマ・ディスティネーション・対象客層、専門用語の解説を学ぶ。 各テーマの企画や手配上の注意、各客層の対応方法などを学ぶ。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ブライダル業界を知る①	課題	5	ブライダル業界の仕事とは	講義
2	ブライダル業界を知る②	課題	5	結婚式のマナー	講義
3	お酒の種類と愉しみ方①	課題	5	世界の洋酒、日本酒について学ぶ	講義
4	お酒の種類と愉しみ方②	課題	5	世界の人気カクテって何？	講義
5	写真の世界①	課題	5	カメラについての基礎知識（カメラ持参）	講義
6	写真の世界②	課題	5	写真撮影大会（FW）	実技
7	登山とトレッキング	課題	10	登山の魅力	講義
8	ホテル研究	課題	10	世界各国の有名ホテルについて学ぶ	講義
9	イスラム教を知る	課題	10	イスラム教の知識を学ぶ	講義
10	クルーズの世界	課題	10	クルーズ旅行の魅力	講義
11	カジノ①	課題	5	基礎知識、ブラックジャック	実技
12	カジノ②	課題	5	ルーレット	実技
13	世界の食体験	課題	10	世界のカップ麺について	講義
14	仏像の楽しみ方	課題	10	仏像の魅力を知り、歴史や知識を学ぶ	講義
15	まとめ			後期の総まとめ	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定 各講義のレポートを授業に提出すること	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料 プリント配布

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			ビジネス中国語			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
①短文の読解、感想文の作文を通して、会話、読解、ライティングのトータルスキルを身につける ②中国の社会、経済、産業についての知識を習得する ③ビジネスに必要なコミュニケーション力を身につける	これまで学んだ基礎を土台に、ビジネスの場面で対応できる表現と文法をリスニング、シャドウイング、読解を繰り返し練習する

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	入国手続き			入国手続きに使われる基本表現について説明できる	講義
3	ホテルのチェックイン	筆記	20	チェックインするときに使われる基本表現について説明できる	講義
4	両替			両替に使われる基本表現について説明できる	講義
5	銀行			口座を開く時によく使われる基本用語について説明できる	講義
6	市内観光	筆記	20	道を尋ねる際に使われる基本表現について説明できる	講義
7	ビジネス電話			電話でアポイントをとる際の基本表現について説明できる	講義
8	道を尋ねる			道を尋ねる際に使われる基本表現について説明できる	講義
9	診察を受ける	筆記	20	診察を受ける際によく使われる基本表現について説明できる	講義
10	病院			体の調子を言う時によく使われる関連表現について説明できる	講義
11	ミーティング			ミーティングする際に使われる基本表現について説明できる	講義
12	仕事を依頼する	筆記	20	仕事を依頼する時に使われる関連表現について説明できる	講義
13	会社訪問			会社を訪問する際に使われる基本表現について説明できる	講義
14	時事ニュース	筆記	20	簡単な時事ニュースを読むことができる	講義
15	総復習 フィードバック			総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			応用中国語（会話）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
さまざまなシチュエーションを想定した会話をマスターする。中国語で簡単な討論ができるようにする。	実技、講義、授業内テスト、期末試験。 授業は中国語のみで進行する。講義で高級レベルの語彙、用法を学びながら、シチュエーションに応じた豊富な表現方法を身に付ける。シチュエーション会話ではテーマに沿った内容を中国語で考えて討論形式で進行する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	第五課「意思意思就行了」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
2	第五課「意思意思就行了」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
3	シチュエーション会話			今、何について悩んでる？	講義
4	第六課「意思意思就行了」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
5	第六課「意思意思就行了」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
6	シチュエーション会話			日本と中国語圏の習慣の違いについて	講義
7	第七課「意思意思就行了」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
8	第七課「意思意思就行了」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
9	シチュエーション会話			環境問題について考えよう	講義
10	第八課「意思意思就行了」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
11	第八課「意思意思就行了」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
12	シチュエーション会話			10年後の自分たちを語ってみよう	講義
13	第九課「意思意思就行了」（1）			新出語句、構文の理解と会話練習	講義
14	第九課「意思意思就行了」（2）	実技	5	新出語句、構文の理解と会話練習	講義
15	総復習				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	配布資料、高级汉语口语1（北京大学出版社）

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			応用中国語（文法）			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
中検２級レベルの応用的な文法をマスターする。会話・読み書きで豊富な構文を用いて自身の考えを述べたり、状況を説明することができる。	講義、授業内テスト、期末試験。 講義メインで進行。応用的な用法をメインに学習する。 授業内テストで理解度を確認する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	様々な多義語（1）			「個」「給」の用法	講義
2	様々な多義語（2）			「在」「着」の用法	講義
3	様々な多義語（3）			「好」「対」の用法	講義
4	様々な多義語（4）			「弄」の用法	講義
5	理解度チェック	筆記	10		講義
6	様々な多義語（5）			「来」の用法	講義
7	様々な多義語（6）			「上」の用法	講義
8	様々な多義語（7）			「下」「就」の用法	講義
9	様々な多義語（8）			「才」「倒」の用法	講義
10	理解度チェック	筆記	10		講義
11	応用演習（1）			練習問題で理解を深める	講義
12	応用演習（2）			練習問題で理解を深める	講義
13	応用演習（3）			練習問題で理解を深める	講義
14	応用演習（4）			練習問題で理解を深める	講義
15	総復習				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			時事中国語			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
新聞を中心に最新のニュースを読み解く。 時事中国語独特の表現に慣れる。	毎回ニュースを読解し、語彙を強化する。また留学を通して体感した日本の問題点を中心に、時事テーマをディスカッションする。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ガイダンス・前期の復習			授業概要の説明・中文Eメールについて	講義
2	インターネットで情報を知る	課題	10	中国語でインターネット検索をし現在のニュースに触れる	講義
3	ニュースについてのディスカッション	実技	10	インターネットで検索したニュースについてディスカッションする	実技
4	中国語新聞を読み解く①			中国語新聞で話題になっている記事をピックアップし理解する	講義
5	中国語新聞を読み解く②	課題	10	中国語新聞で話題になっている記事をピックアップし理解する	講義
6	新聞記事を読み解きディスカッション	実技	15	中国語新聞を読み解き自身の気持ちを中国語でディスカッションする	実技
7	復習・授業内テスト	筆記	15	これまでの復習・新聞読み取りテスト	講義
8	雑誌を読む			中国で流行している雑誌を読み解く	講義
9	日本と中国のちがい①			新聞・雑誌を使い日本と中国のちがいについて理解する	講義
10	日本と中国の文化・ちがいを調べる	課題	10	新聞・インターネット・雑誌を使い日本と中国の違いを知る	講義
11	日本と中国の違いについてのディスカッション	実技	15	前回まとめた内容をディスカッションする	実技
12	課題作成			日本と中国についてをテーマにレポートを作成	講義
13	課題作成			日本と中国についてをテーマにレポートを作成	講義
14	課題作成・提出	課題	15	日本と中国についてをテーマにレポートを作成→提出	講義
15	総まとめ			１年間学んだ内容の復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
すべての授業内評価・・・母数減らし	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	オリジナル資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			卒業制作			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
①『感謝・人のためにプロジェクト』 自己の成長には周囲の方の支えが必要不可欠だということを 改めて感じ、感謝の意を表すことの重要性を知る。 また、業界人としてのホスピタリティマインドを養う。 ②『語学で世界の架け橋になる』 ２年間で習得した、つながり・コミュニケーション能	①「感謝」→「誰かのために」という行動を起こすことで 人間力を高めることを目的とする。 ②自らの経験を活かし、中国と日本を結ぶ社会貢献行動を実践する。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション			授業のねらいを把握	講義
2	「感謝」・「人のために」プロジェクト①			お世話になった方への「感謝」を伝えるためのブレインストーミング	講義
3	「感謝」・「人のために」プロジェクト②	課題	10	アイデアを絞る・計画する	講義
4	「感謝」・「人のために」プロジェクト③			実行にうつすための方法を検討する	講義
5	「感謝」・「人のために」プロジェクト④リハーサル	課題	10	実行に向けたリハーサルをとり行う	講義
6	「感謝」・「人のために」発表	実技	15	お世話になった方への「感謝」を伝える	実技
7	『語学で世界の架け橋になる』① 自分たちの能力を見つめる			過去の経験を振り返り、自分たちの能力を見える化する	講義
8	『語学で世界の架け橋になる』② 社会貢献とは①	課題	10	社会貢献について学び、理解を深める	講義
9	『語学で世界の架け橋になる』③ 社会貢献とは②			社会貢献について学び、理解を深め、実践するアイデアを練る	講義
10	『語学で世界の架け橋になる』④ 能力＋社会貢献＝①	課題	10	能力・社会貢献を掛け合わせ、自分たちがやりたいことをブレインストーミングする	講義
11	『語学で世界の架け橋になる』⑤ 能力＋社会貢献＝②			能力・社会貢献を掛け合わせ、自分たちがやりたいことをブレインストーミング→リサーチ	講義
12	『語学で世界の架け橋になる』⑥ 能力＋社会貢献＝③	課題	10	発表内容を取りまとめる	講義
13	『語学で世界の架け橋になる』⑦ リハーサル			発表に向けてリハーサルをとり行う	講義
14	『語学で世界の架け橋になる』発表	実技	15		実技
15	総復習 フィードバック	課題	15	総復習	講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
追試対応：翌週授業までに課題提出にて認定	Ａ　８０点以上 Ｂ　７０点以上 Ｃ　６０点以上 Ｄ　５９点以下	配布資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			中国語PCスキル			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
前期の学習した内容を活かし、さまざまな課題にチャレンジし中国語のPCスキルを上達させる	中国語でのタイピング練習。 前期の復習

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	ガイダンス・前期の復習①			授業の進め方を説明・前期で学習したWord・PowerPoint操作の復習	実技
2	前期の復習②	課題	10	前期で学習したビジネス文書の復習	実技
3	中国語の新聞を作成する①			Wordを使って中国語の新聞作成にチャレンジ	実技
4	中国語の新聞を作成する②	課題	15	Wordを使って中国語の新聞作成にチャレンジ	実技
5	中国語でのレポート作成を学習する	課題	10	Wordを使って中国語のレポートを作成する	実技
6	中国で流行しているデザインを学ぶ			インターネットで検索し、現在流行っているデザインの考察などをおこなう	実技
7	中国語でのポスターを作成する①			中国国内で掲示することを考えたポスターの作成をおこなう	実技
8	中国語でのポスターを作成する②	課題	15	中国国内で掲示することを考えたポスターの作成をおこなう	実技
9	中国語でExcelを学習する①			中国語表記されたExcelで基本操作を学ぶ 書式設定・表の作成	実技
10	中国語でExcelを学習する②			中国語表記されたExcelで基本操作を学ぶ 四則演算・基本的な関数	実技
11	中国語でExcelを学習する③			中国語表記されたExcelで基本操作を学ぶ グラフ作成・応用関数	実技
12	復習・授業内テスト	実技	30	これまで学習した内容の復習 Excelの授業内テスト	実技
13	課題案内・作成			PowerPointを使いテーマに沿った課題を作成する	実技
14	課題作成	課題	20	PowerPointを使いテーマに沿った課題を作成する。→提出	実技
15	総復習			１年間学習した内容の総合的な復習	実技

追試詳細	達成度評価	使用教材
2回目・4回目・5回目・8回目・・母数減らし 12回目・・・次週授業終了後に実施 14回目・・・次週までに担当講師へ提出	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	オリジナル資料

授業計画書

学部	昼	学科科	中国語科	年次	2	クラス		
時間数			30	単位数	2	区分	専門	必修
科目名			中国語検定対策			講師名		
担当講師の実務経験			○	実務経歴				

授業のねらい・学期の達成目標	授業概要と進め方
11月に行われる「中国語検定」2級、12月に行われる二次試験の合格を目指し、その対策を行う。 検定終了後は準1級の問題にもチャレンジする。	筆記問題の対策とリスニング問題の対策を交互に行い、同じペースでのレベルアップを目指す。 試験直前は集中して問題を解く。

実施回数	学習項目	授業内テスト 形式	授業内テスト 点数	各回の到達目標	授業形式
1	オリエンテーション				講義
2	中国語検定2級対策①			筆記対策①	講義
3	中国語検定2級対策②			リスニング対策①	講義
4	中国語検定2級対策③	筆記	25	筆記対策②	講義
5	中国語検定2級対策④			リスニング対策②	講義
6	中国語検定2級対策⑤			筆記対策③	講義
7	中国語検定2級対策⑥	筆記	25	リスニング対策③	講義
8	中国語検定2級対策⑨			対策総まとめ①	講義
9	中国語検定2級対策⑩			対策総まとめ②	講義
10	中国語検定2級振り返り	筆記	25	検定振り返り	講義
11	中国語検定準１級対策①			準１級の問題にチャレンジ①	講義
12	中国語検定準１級対策②			準１級の問題にチャレンジ②	講義
13	中国語検定準1級対策③			準1級の問題にチャレンジ③	講義
14	中国語検定準１級対策④	筆記	25	準1級の問題にチャレンジ④	講義
15	まとめ				講義

追試詳細	達成度評価	使用教材
	A　８０点以上 B　７０点以上 C　６０点以上 D　５９点以下	〝合格奪取！中国語検定2級 トレーニングブック 筆記問題編（仮） 合格奪取！中国語検定2級 トレーニングブック リスニング問題編 （仮）〞